

## 鉄砲洲神社詩吟 素読論語解説

(平成 27 年 2 月 6 日)

【二〇】子<sup>し</sup>衛<sup>えい</sup>の靈公<sup>れいこう</sup>の無道<sup>むどう</sup>を言う。康子<sup>こうし</sup>曰<sup>いわ</sup>く、夫<sup>そ</sup>れ是<sup>かく</sup>の如<sup>ごと</sup>くならば、奚<sup>なん</sup>ぞ喪<sup>うしな</sup>わざると。  
孔子<sup>こうし</sup>曰<sup>いわ</sup>く、仲叔圉<sup>ちゅうしゆくぎよ</sup>賓客<sup>ひんかく</sup>を治<sup>おさ</sup>め、祝鮀<sup>しゆくだ</sup>宗廟<sup>そうびょう</sup>を治<sup>おさ</sup>め、王孫賈<sup>おうそんか</sup>軍旅<sup>ぐんりよ</sup>を治<sup>おさ</sup>む。其<sup>そ</sup>れ是<sup>かく</sup>の如<sup>ごと</sup>し。  
奚<sup>なん</sup>ぞ其<sup>うしな</sup>れ喪<sup>うしな</sup>わんと。

衛の靈公は、だらしない君子である。きちんとした事をしないから、国の規律が緩んで道徳もどこかにいってしまったような状況である。

季康子が衛の靈公は駄目君主なのに王位を追放されないのでしょうかと聞いた。孔子は靈公は駄目君主だけでも、ひとつだけ良いことがある。それは人材をよく用いている。仲叔圉は外交面では非常に長けている。祝鮀は祭祀のことに長けている。王孫賈は軍備に長けている。そのように人材をもちいてあれば、敵は侮ることはしないから、靈公が追放されることはない。

上に立つ者がいまひとつでも、その周りを固めている大臣達が立派であれば、その国は十分に持つという話です。

このお話で思ったことは、北朝鮮はどうなのだろうか。周りもそんなに良いのかねという疑問を持ちました。日本は、今、安倍さんが内閣総理大臣だけでも、ちょっと足を引っ張りそうな人間がいると、即座にクビを切って次から次へと大臣を代えて安全運転で使いこなしている。これは使いこなされている大臣が良いのか、安倍さんが上手にやっているのか、そこら辺はちょっと難しいなと思うけれど、今のところ安倍さんの方が上手に使いこなしているのであろうと思います。

安倍さんが馬脚を現してきた時に、他の人達が頭角を現すであろうと想像させるような文章だなと思って、ちょっと面白くなって読みました。

【二一】子曰<sup>しいうわ</sup>く、其<sup>そ</sup>の之<sup>これ</sup>を言<sup>い</sup>うこと作<sup>は</sup>じざれば、則<sup>すなわ</sup>ち之<sup>これ</sup>を為<sup>な</sup>すや難<sup>かた</sup>し。

孔子がいうには、体言壮語して恥じない人間。これは自分で実行する力があるかどうかを考えないで大言壮語する人間が多い。自分で大風呂敷を広げ自慢したいと思ったときに

は、軽々しく言ってはいけない。

大言壮語して恥じない人間に対して、忠告を發したものだ考えると良いと思います。

国会答弁を聞いていると、揚げ足取りばかりをお互いにやっているから、こういうところを一所懸命に読んだ方が良いのかなと思います。大言壮語しないほうが良いと思います。